



CLI セットアップ プログラムによるスイッチの設定

ここでは、スタンドアロン スイッチを Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で設定する手順について説明します。Express Setup を使用してスイッチをセットアップするには、『Cisco CGS 2520 Getting Started Guide』を参照してください。スイッチを電源に接続する前に、[第 2 章「スイッチの設置」](#)と[第 3 章「電源の取り付け」](#)を参照して安全に関する注意事項を確認してください。

コンソール ポート経由での CLI のアクセス

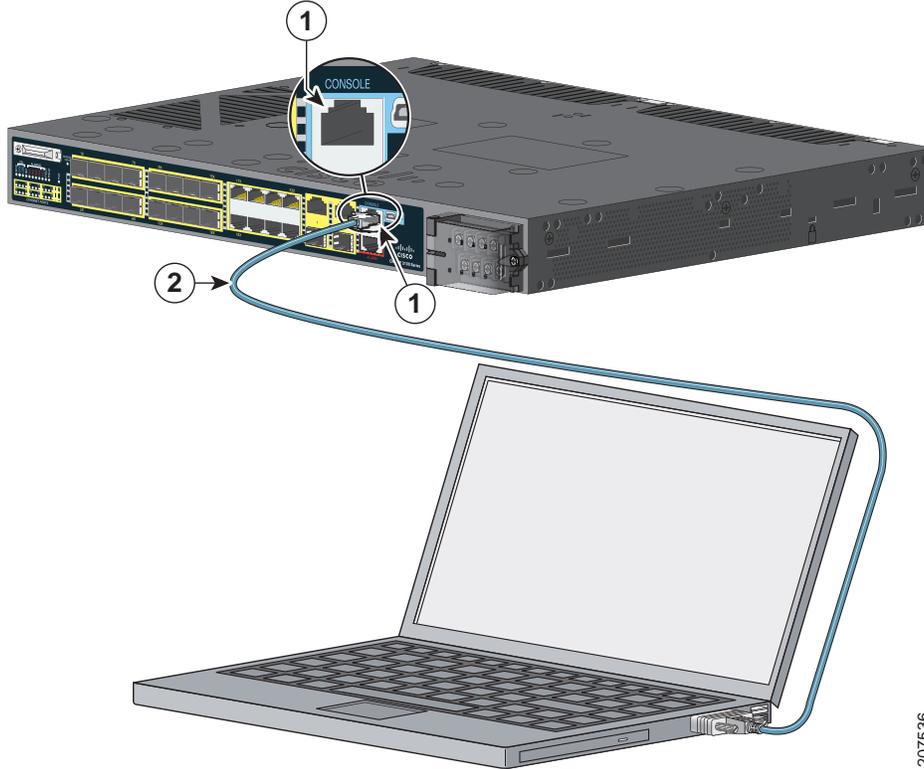
Cisco IOS コマンドおよびパラメータは CLI によって入力できます。次のオプションノイズ化を使用して CLI にアクセスします。

- [「RJ-45 コンソール ポート」](#)
- [「USB コンソール ポート」](#)

RJ-45 コンソール ポート

- ステップ 1** RJ-45/DB-9 アダプタ ケーブルを PC の 9 ピン シリアル ポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのコンソール ポートに接続します。
- ステップ 2** PC または端末上で端末エミュレーション ソフトウェアを起動します。このプログラム（その多くは、HyperTerminal や ProcommPlus などの PC アプリケーション）は、使用可能な PC または端末とスイッチの間の通信を確立します。

図 C-1 コンソールケーブルの接続



| | | | |
|----------|----------------|----------|---------------------------------|
| 1 | RJ-45 コンソールポート | 2 | コンソールケーブル (RJ-45/DB-9 アダプタケーブル) |
|----------|----------------|----------|---------------------------------|

ステップ 3 PC または端末のボーレートおよびキャラクタフォーマットを、次に示すコンソールポートの特性に合わせて設定します。

- 9600 ボー
- 8 データビット
- 1 ストップビット
- パリティなし
- なし (フロー制御)

ステップ 4 第 3 章「電源の取り付け」に記載されているようにスイッチに電源を接続します。

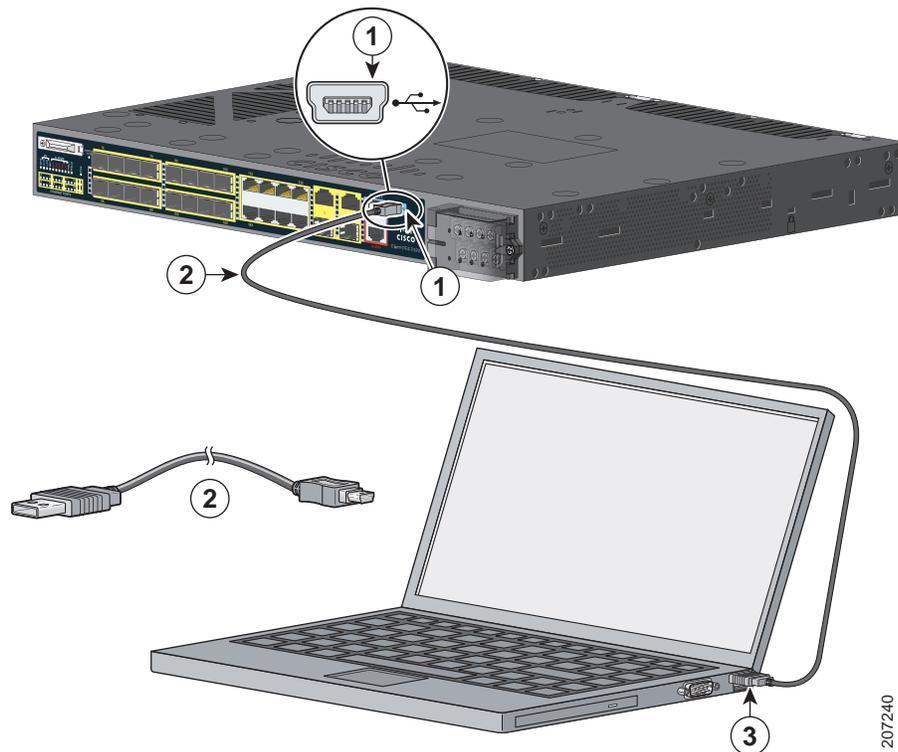
ステップ 5 PC または端末にブートローダシーケンスが表示されます。Enter を押してセットアッププロンプトを表示します。「セットアッププログラムの完了」(P.C-7) の手順に従ってください。

USB コンソール ポート

ステップ 1 スイッチの USB コンソール ポートを Windows ベースの PC に最初に接続するときは、USB ドライバをインストールします。図 C-2 を参照してください。

- 「Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール」 (P.C-4)
- 「Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール」 (P.C-5)
- 「Cisco Microsoft Windows Vista USB ドライバのインストール」 (P.C-5)

図 C-2 USB コンソール ケーブルの接続



| | | | |
|---|---------------|---|--------------|
| 1 | USB コンソール ポート | 3 | PC の USB ポート |
| 2 | USB ケーブル | | |

ステップ 2 USB ケーブルを PC の USB ポートに接続します。ケーブルのもう一方の端をスイッチのミニ B (5 ピンコネクタ) USB コンソール ポートに接続します。図 C-2 を参照してください。

ステップ 3 USB コンソール ポートに割り当てられた COM ポートを識別するには、次の手順を実行します。[Start] > [Control Panel] > [Systems] を選択します。[Hardware] タブをクリックして、[Device Manager] を選択します。[Ports] セクションを展開します。割り当てられた COM ポートが、[Cisco USB System Management Console] というエントリの行末の括弧内に表示されます。

ステップ 4 PC または端末上で端末エミュレーション ソフトウェアを起動します。プログラム (通常、HyperTerminal または Procomm Plus などの PC アプリケーション) によって、スイッチと PC または端末との通信が可能になります。

ステップ 5 COM ポートを設定します。

- ステップ 6** PC または端末のボーレートおよびキャラクタフォーマットを、次に示すコンソールポートの特性に合わせて設定します。
- 9600 ボー
 - 8 データ ビット
 - 1 ストップ ビット
 - パリティなし
 - なし (フロー制御)
- ステップ 7** 第 3 章「電源の取り付け」に記載されているようにスイッチに電源を接続します。
- ステップ 8** PC または端末にブートローダシーケンスが表示されます。Enter を押してセットアッププロンプトを表示します。「セットアッププログラムの完了」(P.C-7) の手順に従ってください。
-

Cisco Microsoft Windows USB デバイス ドライバのインストール

Cisco Microsoft Windows XP USB ドライバのインストール

- ステップ 1** Cisco.com からファイル Cisco_usbconsole_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) ドライバファイルは、Cisco.com のソフトウェアダウンロードサイトからダウンロードできます。

- ステップ 2** 32 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows_32 フォルダ内の setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット Windows XP を使用している場合は、Windows_64 フォルダ内の setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。
- ステップ 3** Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。
- ステップ 4** [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。
- ステップ 5** [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。
- ステップ 6** USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソールポートに接続します。USB コンソールポートの LED がグリーンで点灯し、Found New Hardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。
-

Cisco Microsoft Windows 2000 USB ドライバのインストール

ステップ 1 Cisco.com からファイル Cisco_usbconsole_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) ドライバ ファイルは、Cisco.com のソフトウェア ダウンロード サイトからダウンロードできます。

ステップ 2 setup.exe ファイルをダブルクリックします。

ステップ 3 Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。

ステップ 4 [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。

ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

ステップ 6 USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、Found New Hardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

Cisco Microsoft Windows Vista USB ドライバのインストール

ステップ 1 Cisco.com からファイル Cisco_usbconsole_driver.zip を入手し、解凍します。



(注) ドライバ ファイルは、Cisco.com のソフトウェア ダウンロード サイトからダウンロードできます。

ステップ 2 32 ビット Windows Vista を使用している場合は、Windows_32 フォルダ内の setup.exe ファイルをダブルクリックします。64 ビット Windows Vista を使用している場合は、Windows_64 フォルダ内の setup(x64).exe ファイルをダブルクリックします。

ステップ 3 Cisco Virtual Com InstallShield Wizard が起動します。[Next] をクリックします。

ステップ 4 [Ready to Install the Program] ウィンドウが表示されます。[Install] をクリックします。



(注) ユーザ アカウント制御の警告が表示されたら、[Allow - I trust this program] をクリックします。

ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

ステップ 6 USB ケーブルを、PC とスイッチのコンソール ポートに接続します。USB コンソール ポートの LED がグリーンで点灯し、Found New Hardware ウィザードが表示されます。指示に従って、ドライバのインストールを完了します。

Cisco Microsoft Windows USB ドライバのアンインストール

Cisco Microsoft Windows XP および 2000 USB ドライバのアンインストール

ドライバは、Windows Add or Remove Programs ユーティリティまたは setup.exe ファイルを使用して削除することができます。

Add or Remove Programs ユーティリティの使用



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1 [Start] > [Control Panel] > [Add or Remove Programs] を選択します。
- ステップ 2 [Cisco Virtual Com] までスクロールして [Remove] をクリックします。
- ステップ 3 [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。

Setup.exe プログラムの使用



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2 Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3 [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 4 [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。
- ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

Cisco Microsoft Windows Vista USB ドライバのアンインストール



(注) ドライバをアンインストールする前に、スイッチとコンソール端末を切り離します。

- ステップ 1 32 ビット Windows の場合は setup.exe を、64 ビット Windows の場合は setup(x64).exe を実行します。[Next] をクリックします。
- ステップ 2 Cisco Virtual Com の InstallShield Wizard が表示されます。[Next] をクリックします。
- ステップ 3 [Program Maintenance] ウィンドウが表示されます。[Remove] オプション ボタンを選択します。[Next] をクリックします。

ステップ 4 [Remove the Program] ウィンドウが表示されたら、[Remove] をクリックします。



(注) User Account Control 警告が表示された場合は、[Allow - I trust this program] をクリックして先に進みます。

ステップ 5 [InstallShield Wizard Completed] ウィンドウが表示されます。[Finish] をクリックします。

初期設定情報の入力

スイッチを設定するには、セットアッププログラムを完了する必要があります。セットアッププログラムは、スイッチの電源がオンになると自動的に実行されます。スイッチがローカル ルータやインターネットと通信するのに必要な IP アドレスやその他の設定情報を割り当てる必要があります。

IP 設定

次の情報が必要です。

- スwitchの IP アドレス
- サブネット マスク (IP ネットマスク)
- デフォルト ゲートウェイ (ルータ)
- イネーブル シークレット パスワード
- イネーブル パスワード
- Telnet パスワード

セットアップ プログラムの完了

セットアッププログラムを完了し、スイッチの初期設定を作成する手順は次のとおりです。

ステップ 1 最初の 2 つのプロンプトで **Yes** を入力します。

```
Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]: yes
```

```
At any point you may enter a question mark '?' for help.  
Use ctrl-c to abort configuration dialog at any prompt.  
Default settings are in square brackets '[]'.
```

```
Basic management setup configures only enough connectivity  
for management of the system, extended setup will ask you  
to configure each interface on the system.
```

```
Would you like to enter basic management setup? [yes/no]: yes
```

ステップ 2 スwitchのホスト名を入力し、**Return** を押します。

ホスト名は、コマンド スwitchでは 28 文字以内、メンバー スwitchでは 31 文字以内に制限されています。どのスswitchでも、ホスト名の最終文字として **-n** (**n** は数字) を使用しないでください。

```
Enter host name [Switch]: host_name
```

- ステップ 3** イネーブル シークレット パスワードを入力し、**Return** を押します。
- パスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で、先頭を数字にすることもできます。大文字と小文字の区別があります。スペースは使用できますが、先行スペースは無視されます。シークレット パスワードは暗号化され、イネーブル パスワードはプレーン テキストです。

```
Enter enable secret: secret_password
```

- ステップ 4** イネーブル パスワードを入力し、**Return** を押します。

```
Enter enable password: enable_password
```

- ステップ 5** 仮想端末 (Telnet) パスワードを入力し、**Return** を押します。

パスワードは 1 ～ 25 文字の英数字で、大文字と小文字の区別があります。スペースは使用できますが、先行スペースは無視されます。

```
Enter virtual terminal password: terminal-password
```

- ステップ 6** (任意) プロンプトに従って、**Simple Network Management Protocol (SNMP; 簡易ネットワーク管理プロトコル)** を設定します。CLI を使用して、あとで **SNMP** を設定することもできます。あとで **SNMP** を設定する場合は、**no** と入力します。

```
Configure SNMP Network Management? [no]: no
```

- ステップ 7** 管理ネットワークに接続するインターフェイスのインターフェイス名 (物理的なインターフェイスまたは **VLAN** の名前) を入力して、**Return** を押します。このリリースでは、常にそのインターフェイスとして **vlan1** を使用します。

```
Enter interface name used to connect to the
management network from the above interface summary: vlan1
```

- ステップ 8** インターフェイスを設定するために、スイッチの **IP** アドレスとサブネット マスクを入力し、**Return** を押します。下に示す **IP** アドレスとサブネット マスクは一例です。

```
Configuring interface vlan1:
Configure IP on this interface? [yes]: yes
IP address for this interface: 10.4.120.106
Subnet mask for this interface [255.0.0.0]: 255.0.0.0
```

- ステップ 9** **Y** を入力して、スイッチをクラスター コマンド スイッチとして設定します。**N** を入力すると、メンバー スイッチまたはスタンドアロン スイッチとして設定されます。

N を入力した場合は、CLI を使用してスイッチをコマンド スイッチとしてあとで設定できます。あとで設定する場合は、**no** と入力します。

```
Would you like to enable as a cluster command switch? [yes/no]: no
```

スイッチの初期設定が完了しました。スイッチにその設定が表示されます。設定出力例を次に示します。

```
The following configuration command script was created:
hostname switch1
enable secret 5 $1$U1q8$D1A/OiaEb190WcBPd9cOn1
enable password enable_password
line vty 0 15
password terminal-password
no snmp-server
!
no ip routing

!
interface Vlan1
no shutdown
ip address 10.4.120.106 255.0.0.0
```

```
!  
interface FastEthernet1/0/1  
!  
interface FastEthernet1/0/2  
  
interface FastEthernet1/0/3  
!  
...<output abbreviated>  
end
```

ステップ 10 次の選択肢が表示されます。

[0] Go to the IOS command prompt without saving this config.

[1] Return back to the setup without saving this config.

[2] Save this configuration to nvram and exit.

If you want to save the configuration and use it the next time the switch reboots, select option 2 to save it in NVRAM.

Enter your selection [2]:2

いずれかを選択して **Return** を押します。

セットアッププログラムが完了すると、スイッチは作成されたデフォルト設定を実行できます。この設定を変更したり、他の管理タスクを実行したりするには、Switch> *prompt* でコマンドを入力します。

